

小金井市行財政改革市民会議  
「理念と方針」部会（第2回）次第

日時 令和2年10月12日（月）

午後7時00分から

場所 萌え木ホールA会議室

- 1 「重点取組」部会（第1回）での議論（7：00～7：10）
  
- 2 自治体経営及び行財政改革の「理念」について（7：10～8：30）
  - （1）理念について（7：10～7：40）
  
  - （2）方針について（7：40～8：20）
  
  - （3）目標について（8：20～8：30）
  
- 3 その他

※ 配付資料

事前配付・資料1 新しい行財政改革の理念（叩き台）

当日配付・資料2 「理念と方針」検討の留意点

新たな行財政改革の理念（叩き台）

全体的な考え方		
<p>先行き不透明な時代において、小金井市の魅力を高め、住民福祉を持続的に増進することができる自治体経営</p>		
<p>【地方自治法の規定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○義務：最少の経費で最大の効果</li> <li>○努力：住民福祉の増進 組織及び運営の合理化 規模の適正化（他自治体の協力）</li> </ul> <p>↓</p> <p>民間でできるものは民間へ 行政しかできないことに集中 (実態で判断。教育等を守る)</p>	<p>【まち・ひと・しごと】</p> <p>若年層や子育て世代の定住促進</p> <p>【第5次基本構想】</p> <p>いかそうみどり 増やそう笑顔 つなごう人の輪 小金井市</p> <p>↓</p> <p>「あるもの磨き」ができる行政 職員と市民の信頼と協創 (元気な職員を評価し育成する)</p>	<p>【行財政改革の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○先行き不透明な時代の自治体経営</li> <li>○主要で困難な課題の先送り（H27.3）</li> <li>○重要課題の増加（従来＋新規）</li> <li>○経営資源の不足（財源に加えて人財）</li> </ul> <p>↓</p> <p>見通しを立てて柔軟に対応する経営 重要課題を解決する総合調整 (リスクを取る。最優先で取り組む)</p>
① 先行き不透明な時代	② 地域の魅力を高める	③ 住民福祉の持続的な増進
<ul style="list-style-type: none"> <li>○見通しの立たないVUCA時代における従来型計画行政に代わる意思決定</li> <li>○見方によって解も変わる状況における変革の市民・議会・行政の一体的推進</li> </ul> <p>↓</p> <p>方向性を立て変化に即応する経営 経営戦略の明確化・共有・更新 (アジャイル経営)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の魅力を知らない職員と市民。発掘と発信、その意識の必要</li> <li>○従前の関係の弱まりと新たなつながり。災害も含むコミュニティの重要性</li> </ul> <p>↓</p> <p>市民と職員が魅力を育て合う関係 市民・企業等との高度な協働（協創） (協働・協創経営)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共施設・インフラの更新、少子高齢対策と財政問題の解決の両立</li> <li>○特に、学童増加による学童保育の懸念。人口減少を見据えた解決の必要</li> </ul> <p>↓</p> <p>公共施設再編・デジタル変革への対応 経営資源の確保と新たな課題への挑戦 (チャレンジ経営)</p>
目標実現の大まかなシナリオ		
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 危機意識の醸成と共有（市民－議会－行政）</li> <li>② 経営戦略の明確化（ビルド&amp;スクラップ）</li> <li>③ 重点取組の第1弾（スタートダッシュ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ スタートダッシュの成功体験（経験と自信の蓄積）</li> <li>⑤ 重点取組の第2弾（第1弾成果の活用による本格展開）</li> <li>⑥ 各部取組の推進（第2弾成果の活用による全庁展開）</li> </ul>	

※波線の下線の部分の語句は仮置き（より一般的でわかりやすい用語等を要検討）

「理念と方針」検討の留意点

1 行財政改革市民会議の位置付け

- (1) 市民参加－行財政改革市民会議 ※他に長期計画審議会等
- (2) 行 政－行財政再建推進本部 ※他に長期総合計画策定本部等
- (3) 議 会－行財政改革推進調査特別委員会 ※他に総務企画委員会等

2 参考

(1) パーキンソンの法則

- ① 第一法則 仕事の量は、その完成のために与えられた時間をすべて満たすまで膨張する。
- ② 第二法則 支出の額は、収入の額に達するまで膨張する。
- ③ 凡俗法則 組織はどうでもいい物事に対して、それに不釣り合いなほど重点を置く。

(2) 先行き不透明な時代

「先行き不透明な時代」等の表現

- 「先行き不透明な時代」H16.9 中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像」
- 「予測することが困難な時代」 H27.11 中央教育審議会初等中等教育部会  
グローバル化や情報化が進展する社会の中では、多様な主体が速いスピードで相互に影響し合い、一つの出来事が広範囲かつ複雑に伝播し、先を見通すことがますます難しくなっている
- 「予測困難なこれからの時代」 H29.3 小学校学習指導要領
- 「不確実性の時代」 R2.5 経済産業省等「ものづくり白書」
- 「不確実性の高まり」 R2.7 経済財政運営と改革の基本方針 2020

(3) VUCA

- 1990年代にアメリカで軍事用語として発生。2010年代になってビジネス業界でも使われるようになった。OECD Education 2030 プロジェクト（2015年～）でもこの言葉が採用され、日本国内の教育界でも使われるようになる。

- VUCA への対応方法として「OODA ループ」が挙げられる。また、システム開発の方法を応用した「アジャイル経営」も標榜される。

※OODA ループ:観察 (Observe) → 情勢への対応 (Orient) → 意思決定 (Decide) → 行動 (Action) のループ。元は軍事指揮官の意思決定モデル

※アジャイル:意思決定と行動を素早く繰り返すこと。だいたいの仕様と要求を決めたら、小さな単位で開発とテストを繰り返して開発を進める。従来に比べ、開発の途中での仕様の変更・追加や撤退が可能となる。

#### (4) ダイナミック・ケイパビリティ

- 経営学における新たな経営理論。「急速に変化するビジネス環境の中で、変化に対応するために内外の様々なリソースを組み合わせ直し続ける、企業固有の能力・ルーティン」の総称
- そうした力を高めるために、センシング (事業機会・脅威を察知する力※) やシンプル・ルール戦略 (シンプルなルールの徹底と柔軟な意思決定) が効果的とされる。

※センシング強化には、認知の外に出ることが必要とされる。

#### (5) 自治体経営及び行財政改革の課題のイメージ

